オルケストラ　シンフォニカ　東京

第 52 回

定 期 演 奏 会

平成 23 年 4 月 10 日（日）　午後 2：00 開演

第一生命ホール

あいさつ

3月11日（金）に発生した東北地方太平洋沖地震により、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げますと共に、被害を受けられた皆さま、そのご家族に、心からお見舞い申し上げます。

本日はご来場いただきまして誠にありがとうございます。私どもオルケストラ・シンフォニカ・東京は今日ここに第52回定期演奏会を開催する運びとなりました。光陰矢の如しと申しますが、1959年12月の杉田村雄先生による再興第1回からは52年を経過しております。また1987年に「タケイ」を「東京」に改称してからも24年目の演奏会を迎えました。

これも多くの方々のご支援のお陰と感謝し心地よいハーモニーと連帯感を持った演奏でご来場の皆様に楽しんで戴きたく練習を続けてまいりました。

どうぞ、最後までお付き合い下さい。私どもはいつまでも皆さまに親しんで戴けるマンドリンオーケストラであるよう、これからも努力を続けてまいります。

オルケストラ・シンフォニカ・東京　一同

ＯＳＴの歴史

1915（大正　4）年　9月：武井守成*1 楽団創設
1916（大正　5）年　4月：会名をシンフォニア・マンドリニ・オルケストラと称す
1923（大正 12）年 11月：会名をオルケストラ・シンフォニカ・タケヰと改称
1949（昭和 24）年 11月：戦後初めての定期演奏会開催（第49回）
1949（昭和 24）年 12月：武井守成　逝去
1953（昭和 28）年　5月：オルケストラ・シンフォニカ・タケヰ　第55回演奏会
1954（昭和 29）年　　：杉並マンドリンアンサンブル創立（演奏会なし）
1955（昭和 30）年 10月：杉並マンドリンアンサンブル　第1回演奏会（通算56回演奏会）
1956（昭和 31）年　7月：オルケストラ・シンフォニカ・タケイ　第57回演奏会
（タケヰよりタケイに改称）
1958（昭和 33）年 12月：オルケストラ・シンフォニカ・タケイ解散
1959（昭和 34）年 12月：杉田村雄*2 オルケストラ・シンフォニカ・タケイを復興、本楽団第1回定期演奏会を開催（旧ＯＳＴ通算60回）
1986（昭和 61）年　7月：杉田村雄　逝去
1987（昭和 62）年　5月：楽団名をオルケストラ・シンフォニカ・東京（略称ＯＳＴ）と改称
2010（平成 22）年　4月：第51回定期演奏会を開催

＊1）武井守成（たけい もりしげ：1890年10月11日～1949年12月14日）
枢密顧問官 武井守正の二男として鳥取に生まれる。宮内省楽部長・式部官長、男爵。
マンドリン合奏団『オルケストラ・シンフォニカ・タケヰ』（ＯＳＴ）を主宰し、マンドリン合奏曲・ギター独奏曲の作曲家として活動。また雑誌『マンドリンギター研究』を発刊し、1923年にはマンドリン合奏コンクールを、1924年には作曲コンクールを、1927年にはマンドリンオーケストラ作曲コンクールを開催し、マンドリン・ギター音楽の発展に尽力された。

＊2）杉田村雄（すぎた むらお：1903年2月14日～1986年7月17日）
八王子・南多摩郡多摩村の村医　武義の長男として生まれる。
暁星中学時代クラスメートの斉藤秀雄とともに比留間賢八に師事、2人で暁星マンドリン倶楽部から静美社音楽部へと音楽活動を進める。
1939年ＯＳＴに入団。戦時中、武井守成氏の多摩村東寺方疎開に尽力、音楽関係楽譜・資料も戦火を免れる。
武井氏逝去後ＯＳＴの再興に当たり、理事長および指揮をつとめる。武井守成作品の楽譜出版に尽力。日伊音楽協会理事長、マンドリン連盟副会長を歴任し斯界に貢献された。

プログラム

第　一　部　　指揮：嶋　　直　樹

1．歌劇「マドンナの宝石」より　第二幕への間奏曲　　E. W. フェラーリ
（嶋　　直樹　編）

2．金の粉　　E. サティ
（深谷　明弘　編）

3．ロマンス　　O. メリカント
（嶋　　直樹　編）

4．金と銀　　F. レハール
（今村　　正　編）

《　休　　憩　　20分　》

第　二　部　　指揮：山　本　雅　三

1．武井守成小品集　　武　井　守　成
・星を見る　　（ギター独奏：宮本紀子）
・朝靄に　　（ギター合奏）
・茜（あかね）

2．星ひとつ空に瞬く　　D. ジョバンニ
（中野　二郎　編）

3．シリウスへの帰還　　A. ミゲール
（M. トレスター　編）

4．エストレリータ　　M. ポンセ
（山本　雅三　編）

5．ムーンライトセレナーデ　　G. ミラー
（中西　茂樹　編）

6．星空のコンチェルト　　藤　掛　廣　幸

平成23年4月10日（日）　午後2：00開演　　第一生命ホール

曲目解説

第一部

歌劇「マドンナの宝石」より　第二幕への間奏曲

エルマノ・ヴォルフ＝フェラーリ
Ermanno Worf=Ferrari.

E．ヴォルフ＝フェラーリ（1876年～1948年）は、イタリア・ヴェネツィアに生まれコミックオペラの作者として知られていますが、現在最も多く演奏されているのはこの悲歌劇の間奏曲です。奔放な女性マリエラにマドンナ（聖母）の宝石を盗んだ者が自分の愛を得ることができると聞かされた鍛冶屋の若者ジェナロが宝石を盗みますが、最後には裏切られ、罪を聖母に懺悔して自ら命を絶つという物語です。ジェナロが家の中でマリエラに自分の愛が受け入れられないのを悲しみ悩んでいる情景を表した哀愁を帯びた美しい曲です。

金の粉

エリック・アルフレッド・レスリ・サティ
Erik Alfred Lesli Satei.

E．サティ（1866年～1925年）はフランスの作曲家で、その特異的な作曲技法により当時「音楽界の異端児」などと呼ばれていましたが、現在では「西洋音楽の伝統に大きな扉を開いた革新者」とも呼ばれ、後進の作曲家に非常に多くの影響を与えました。この「金の粉」は、1902年頃の作品で元々はミュージック・ホール向けの楽しいオーケストラ曲として作曲され、作曲者自身の手でピアノ独奏用の版が作られました。中間部には「恋に悩むように」と発想標語が書かれています。

今回は、このピアノ譜を元にマンドリニストの深谷明弘氏に編曲をしていただいたものを演奏します。深谷氏は、愛知県のご出身でマンドリンを川口雅行氏に師事、1998年には第16回日本マンドリン独奏コンクールで第4位（1位なし）の成績を上げられ、現在は年一回のリサイタルの他、各地での演奏活動、また後進の指導にもご活躍されています。

ロマンス

オスカル・メリカント
Oskar Merikanto.

O．メリカント（1868年～1924年）は、北欧フィンランドの代表的な作曲家の一人で同時期に活躍したシベリウスをもその国内では凌ぐほどの人気を得ていました。シベリウスが交響曲や交響詩などを作曲し国際的にも知られたのに対し、メリカントは心に響く小形式の歌曲やピアノ曲を多く作曲し「国民的作曲家」として、親しまれてきたのです。メリカントが生まれた頃は、未だフィンランドは独立しておらず、スウェーデンの永年の支配の後、ロシアの領土となり、一応自治が認められてはいたものの圧政に苦しめられていました。メリカントは50歳になった年、1918年にロシア革命の混乱に乗じて独立を宣言し、フィンランド共和国が成立しました。今回演奏する「ロマンス」も原曲はピアノ曲です。マンドリンオーケストラで演奏するのはおそらく初めてのことでしょう。フィンランド地方の透明感、雄大さ、雪の結晶が空を舞う情景などを思い浮かべながらお聴き下さい。

ワルツ「金と銀」

フランツ・レハール
Franz Lehar.

F．レハール（1870年～1948年）は、ドイツ人を両親としてハンガリーに生まれました。プラハ音楽院を卒業後、軍楽隊長を経てウィーンでオペレッタ作曲家としてデビュー、オペレッタ「メリーウィドー」で一躍人気作曲家となりました。今回演奏するワルツ「金と銀」は、1902年に開催された舞踏会のために独立した管弦楽曲として作曲されました。この舞踏会、会場は銀色に照らされ、天井には金色の星が煌めき、壁一面に金銀の飾りが付けられ、参加者も金銀の装飾を身に纏っていたと伝えられています。編曲者の今村氏は、富山大学ギターマンドリンクラブでギター・マンドセロ・指揮者を歴任、卒業後、社会人マンドリン合奏団「富山プレクトラムアンサンブル」を結成し、その主席指揮者として活躍されています。

（文責：嶋）

第二部

第二部は、マンドリン音楽で奏でる星空がテーマです。どうぞ、想像力を巡らせ、しばし星たちの歌に耳を傾けてみて下さい。

夜明けの空に「星を見る」とポツリと光る明けの明星が輝いています。朝の静けさが「朝もやに」幻想的に包み込まれたのも一瞬の出来事。まぶしい陽の光が天空に弧を描き、夕日に照らされた「茜」雲が美しく漂います。次第に暮れ行く中、一番星が「星ひとつ空に瞬く」。次第に輝きを増す星々の中でもひときわ鮮やかな輝きを見せている「シリウス」。

「小さな星（エストレリータ）」達も負けじと無数に集まり、青白い雄大な川を描きます。優しい顔をした月は仄かな「ムーンライト」で星達を見守り、気がつけば夜空は無数の星たちに埋め尽くされ、競うように奏でられる「星空のコンチェルト」がいつまでも響いているようです。

武井守成小品集

武　井　守　成

戦前に当楽団の前身であるオルケストラ・シンフォニカ・タケヰを率い、日本の旋律とリズムを巧みに生かし、日本のマンドリン・ギター界に大きな足跡を残された武井守成氏（1890～1949）の演奏形態の異なる三つの小品です。

星を見る　op.112（作品数116）ギターの真価が発揮される独奏曲を数多く作曲し、わが国でギターの一般への普及に先駆的な役割を果たした武井氏晩年昭和23年の作品。現代屈指のギタリスト山下和仁氏のCD「黎明期の日本ギター曲集」にも取り上げられています。

朝靄に　op.76 武井作品としては珍しいギターアンサンブルの作品です。作者の言葉として「朝もやの中に浮かび上がるものを幻に描く」とあります。昭和18年初演。

茜　op.63 昭和17年初演。「タンゴでもハバネラでもない。赤い淡日のさす頃の感情を音に映したまで」と記されています。

星ひとつ空に瞬く

ドメニコ・デ・ジョバンニ
Dmenico de Giovanni.

1899年に発表されたセレナータ・ロマンティカ。作者はボローニャ（伊）出身で1900年前後のイタリアマンドリン黄金期に活躍し、「ローマ・トリノ」「アンデスの花」「わが懐かしき山々に」などが知られています。日本マンドリン連盟発行の中野二郎編曲マンドリン合奏曲集②に収録。

シリウスへの帰還

アルフォンソ・カルロス＝ミゲール
Alfonso Carlos=Miguel.

シリウスは、冬の大三角形の一点を担う「おおいぬ座」のα星。全天の恒星の中で最も明るく輝いています。地球から 8.6 光年先のこの星への旅立ち。緊張感、期待感、美しい夢幻に広がる神秘的な宇宙空間。危険な隕石との遭遇、そして待ち遠しい到着。巨大な宇宙船での旅が描かれています。ヨーロッパにおける現代マンドリン音楽の中心地であるドイツのギタリストで作曲家のトレスター氏（1956 ～、ミゲールはペンネーム）がマンドリンとギターの二重奏曲として作曲し、1995 年にアメリカで初演。後に作者自身によりマンドリン合奏曲として 1996 年に出版され、日本でもしばしば演奏されています。

エストレリータ

マニュエル・マリア・ポンセ
Manuel Maria Pince.

スペイン語で「小さな星」という意味で、原曲は「私の苦しみを見つめて光る星、降りてきて私に彼の気持ちを伝えて。彼なしでは生きられないの。あなたは私の愛の灯台…」というロマンティックな歌詞を持つ歌曲です。近代メキシコ音楽の父と称されるポンセ氏（1882 ～ 1948）が 1913 年に作詞作曲。様々な編曲演奏でポピュラーナンバーとして有名ですが、本日は独特な転調のハイフェッツ編曲のバイオリン独奏版をもとに、フルートをメインとした演奏でお聴きいただきます。

ムーンライトセレナーデ

グレン・ミラー
Glen Miller.

1939 年にグレン・ミラー（1904 ～ 1944）作曲のジャズスタンダードとしてお馴染みのナンバーです。「イン・ザ・ムード」「茶色の小瓶」など、今日でも親しまれているスイングジャズの数々の名曲で知られるグレン・ミラー楽団のテーマ曲。オリジナルと同様にクラリネットをフィーチャーして演奏します。

星空のコンチェルト

藤　掛　廣　幸

藤掛氏（1948 ～）はエリザベート王妃国際音楽コンクールグランプリ、日本音楽コンクール入賞、笹川賞作曲コンクール第一位、全国吹奏楽課題曲コンクール入賞ほか様々な賞を受賞し、現在は作曲家・編曲家・指揮者・シンセサイザープレーヤーとして、広く一般音楽の世界で精力的に活躍中です。一方、1975 年の日本マンドリン連盟主催第一回全日本マンドリン作曲コンクールに「パストラル・ファンタジー」が最高位に入選。（授賞式の記念演奏をＯＳＴが担当しました）「じょんがら」「スプリング・スプラング」「グランドシャコンヌ」など数多くの作品をマンドリン界に提供。指揮、指導、コンクールや様々な催しでの審査・講評などに情熱をもって取り組まれ、日本のマンドリン界の発展に大きく貢献を続けられています。（文責：山本）

作曲者の藤掛廣幸氏のコメント（ＨＰより）

『夜空に輝く無数の星たちを見ていると様々なイメージが浮かび上がってきます。楽団「アーベント・ムジク」より作曲の依頼を受けたものの、一向に筆は進まず困っていましたが、「夕べの音楽」という意味のドイツ語から連想を広げてマンドリンの繊細な音色と、きらめく星たちとの関連に思い至ったときに、一気に楽想が沸きあがり増殖を始めました。「コンチェルト」というタイトルを選んだのは、「音」そのものの美しさを追求したいという思いに基づき、バロック音楽の「合奏協奏曲」を現代に蘇らせたい、という意図があったからです。主要なメロディは、ミュージカル「小さな虫の物語」から引用されました。』

出演者

指揮者	山本雅三	嶋 直樹		
コンサートマスター	本間輝樹	金勝渓子		
第一マンドリン	本間輝樹	田島明子	城戸かほる	小松崎美奈子
	金勝渓子	冨田容子	小川真寿美	
第二マンドリン	諸井美津江	大口千秋	田中尊子	宮崎泰行
	後藤俊明	中村順子	木村栄子	山本雅三
マンドラテノール	滝田ふさ子	深野靖夫	渡辺 清	高嶋典子
	田中倭文子	佐々木興治	川村安子	新谷文子
ギター	平田陽一	門田雄二	黒崎恵美子	船崎 薫
	宮本紀子	戸次 脩	坂本富三郎	伊藤美歩
				澤田行雄
リュートモデルノ	吉尾 浩	高梨一弘	宮本皓永	嶋 直樹
マンドロンチェロ	田村美恵子			
マンドローネ	家城孝治	石井啓之		
コントラバス	佐藤 正	石黒不二夫		
フルート	★西村いづみ			
クラリネット	★福嶋美香			
ピアノ	★浦畠晶子			
打楽器	★若鍋久美子	★清田裕理江		

（★＝賛助奏者）

幹事	宮本皓永(代表)	家城孝治	山本雅三	本間輝樹
	嶋 直樹	諸井美津江	平田陽一	石井啓之
会計監事	後藤俊明			

● オルケストラ・シンフォニカ・東京 ●

《第53回定期演奏会のお知らせ》

◎日時：平成24年4月14日(土) 14:00開演　◎会場：第一生命ホール（晴海・トリトンスクエア）

オルケストラ　シンフォニカ　東京（ＯＳＴ）
連絡先：〒252-0001　座間市相模が丘 3-66-37　　宮　本　皓　永
TEL & FAX　046-255-5248
ホームページ：http://ishii164.net/~ost/